



中高一貫コース高校2年

伊藤 朱里奈さん



トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラム

2025年7月26日(土)～8月17日(日)

コース名：マイ好奇心探究コース

派遣先：オーストラリア・シドニー

留学タイトル

「キワニスドール※普及のため
発祥地であるオーストラリアの
医療現場を調査する」

※白い布に綿を詰めたシンプルな人形です。病院で手術や入院をする子どもたちの恐怖心や不安を和らげるために活用されています。ドールはボランティアが作っています。

◀シドニー小児病院
財団チームとして、
City2Surfマラソン
でのボランティアに
参加しました。

▲語学学校の仲間と一緒に。

行動力が生んだ学びと奇跡

生徒の声

私は、オーストラリアのシドニーに3週間、医療現場でされている工夫について知るために、留学しました。

留学前から決定していた予定がボランティアに参加することしかなく、最初の1週間は、他の活動をするために、小児病院の見学と、現地で見つけた小児医療研究所のツアーに参加できないかのアポ取りをしました。月曜日からほとんど毎日行っただけで、誰もいなかったり英語が通じなかったりして、とても苦労しました。正直その時点で日本に今すぐ帰りたいと思っていたけれど、国からお金を出して頂いている以上、諦めていられないのでカウンターにメモ書きを残して帰ったり、その場でできる最大限のことをして、やっと連絡が取れたと思ったら病院の見学を断られてしまいました。けれど、そこでも諦めていられないので、2週間目に入ってから、一人で病院に行ってみることにしました。ネットでしか見たことがなかったものが自分の目で見られて、感動しました。その週は、朝4時に家を出てボランティアに参加しました。本当に辛かったけれど人生一度っさり精神で頑張りました。その後は、シティを回ったり山に行ったり観光も全力で楽しみました。

3週間目は、もう諦めていた研究所から連絡が来て、留学の最終日にツアーに参加できることになりました。こんな奇跡があるの？って思いました。思っていた以上に過酷な留学だったけれど、それを乗り越えて日本に帰ってきて、味わった達成感は、一生忘れません。いまだにその余韻に浸っています。将来は、自分が医療に関して発信していける立場になれば良いと思っています。



中高一貫コース高校2年

小川 陽生さん

留学タイトル

「哺乳類なのに卵を産む!?不思議な生物であふれる
オーストラリアで動物保護！」

オーストラリアの『裏側』

生徒の声

僕はオーストラリアに1ヶ月間滞在し、語学学校に通いながら動物園の飼育員さんにインタビューをしたり、一般の方々を対象にアンケートを実施したりしました。滞在中に訪れたAustralia Zooでは1日飼育員をさせてもらい、動物に餌をあげるだけでなく普段は見るのでない動物園のバックヤードや動物園に併設されている野生動物病院、その中で行われている手術やリハビリなどの見学をすることができました※。特に顔に怪我を負い酸素マスクを付けているコアラや車に轢かれて自力で立てないカンガルーなど、傷ついている動物を何頭も見ただけで、それらの光景は今でも脳裏に焼き付いています。この留学により、自分のオーストラリアに対するイメージは大きく変わりました。今まで僕が思い描いていたオーストラリアは「野生動物が多い自然豊かな国」というイメージでしたが、野生動物保護の最前線での見学やインタビューをしたことによりオーストラリアの『裏側』を知ることができ、僕達が動物園で動物たちを見ることができるのも『裏側』で活躍する人達がいるからだ実感しました。もしオーストラリアに行く機会があれば、ユーカリの木を見上げてみてください。きっと高い枝に静かに佇むコアラの姿がふと目に入ることでしょう。その光景を見るだけでも、オーストラリアの雄大な自然を感じることができるはずですよ。

トビタテ！留学JAPAN新・日本代表プログラム

2025年8月2日(土)～8月30日(土)

コース名：マイ好奇心探究コース

派遣先：オーストラリア・サンシャインコースト

▲治療を受ける野生
コアラ

▲終了証とともに

※野生動物保護プログラムを運営するWildlife Warriorsは、負傷した野生動物、絶滅の危機に瀕した野生動物の保護活動への参加と啓発を目的に活動する自然保護団体です。



動物園でワニにエサを与える飼育員▲